



姉水

発行所

滋賀県長浜市宮部町 2410
滋賀県立虎姫高等学校内

姉水会

〒529-0112

TEL 虎姫 0749-73-3055(代)

印刷 株式会社サラト

あすの虎姫高校

姉水会会長 大塚 敬一郎

あと4年で
虎姫高校は創
立100年を
迎えます。最近少子化
の影響で各学
校の統廃合が盛んに行われてい

ますが、
虎高も昭和24年から26年の2年間県立
高校の改編ということで伊香高と合併
し県立湖北高校の時代があったことを
つい最近知り驚きました。学校制度自
体も終戦を機に旧制中学校から高等学
校に変わりました。

20世紀から21世紀に入り世の中が目
まぐるしく変化しています。その変化
に対抗するには変えてはいけないもの
はしっかり次代に引き継ぎ、変えるべ
きものは変え、変化を受け入れること
が大事だと思います。

進化論で有名なダーウィンは『最も
強いものや、最も賢いものが生き残っ
たのではない。最も変化に懸命だった
ものが生き残った』と言っています。

私たちは将来にわたり、自分の子や
孫が入りたくなる虎姫高校になるため、
それには何が必要か、姉水会を接点と
して卒業生の皆様方からひろくご意見
をいただき、色々と協力を仰ぎたく願っ
ておりますのでよろしくお願いいたし
ます。

お帰りなさい虎高へ 平成28年度「姉水会」総会のご案内

期 日 平成28年7月31日(日)
日 程 午後3:30~4:00 理事会
4:00~4:40 総 会
4:50~ 懇親会

場 所 長浜ロイヤルホテル (TEL 0749-64-2000)
懇親会 場所: 総会会場 (長浜ロイヤルホテル)
会費: 7,000円

※ ご参加いただける方は、7月25日(月)までに下記の姉水会事務局へ
ご連絡ください。総会あるいは懇親会のみの参加でも結構です。

姉水会事務局 TEL 0749-73-3055 (虎姫高校)
FAX 0749-73-2967 (虎姫高校)
メールアドレス torahime-h-09@shiga-ec.ed.jp

※ FAX、メールの場合は確認用連絡先を明記してください。
※ ご遠方の方には、31日晚の宿泊(長浜ロイヤルホテル素泊まり3,500円)
のご希望も承ります。お気軽にお申し出ください。

今年から総会場所が変わります

姉水会副会長 関谷 松男(昭和43年卒高20回)

姉水会に限らず、同窓会の役割は現役の生徒諸
君の教育環境の整備に向けての援助と同窓生同士
の交流に尽きると思います。今回例年の総会を開
催するに際し、長浜ロイヤルホテルを会場にさせ
ていただくこととなりました。一人でも多くの会
員の皆様のご参加をお待ちしております。



平成28年度 姉水会役員 (敬称略)

役 職	氏 名	卒回
会 長	大塚敬一郎	高17
副会長	笹原那智子	高15
	関谷 松男	高20
	沢田 昌宏	高28
顧 問 (東京姉水会会長) (前会長) (長浜姉水会会長) (県庁姉水会会長) (大阪姉水会会長) (校長)	長谷川隆男	高 3
	前川 一郎	高 7
	木下 善正	高14
	伊藤 正明	高20
	浅見 義典	高27
	根尾 昇	高28
	藤居 毅	高27
監 事	本城 善男	高18
	鈴木富美代	高28
理 事 (東京姉水会事務局長)	瀬邊 勸	高 2
	米田 喜幸	高11
	村田 洋	高14
	大橋香代子	高18
	速水 敏行	高18
	清水 実	高20
	篠原 新衛	高21
	中川 勇	高22
	北田 康隆	高23
	坂井 久泰	高26
	河崎 仁美	高30
	清水 金幸	高31
	廣部宇一郎	高36
	宮島 正典	高37
	馬場 鋭州	高42
	川田 昌史	高48
(大阪姉水会事務局長)		

姉水会 校内役員

役 職	氏 名	卒回
教 頭	河下 太勇	高32
事務長	堤 喜久美	
総 務 (会計) (会計)	◎ 篠宮 寿夫	高32
	○ 吉田 晴洋	高36
	○ 菅原 信章	高38
	鈴木 泰子	高42
	川瀬 千津	高43
	杉本 智子	高46
	山根 孝子	高46
	多賀 通子	高49
	宮田 崇弘	高60
	木野 葵	高62
会 報 (記念誌)	○ 岩崎 俊裕	高34
	田濃 良和	高36
	川村 洋輔	高58
会員名簿	上松 俊彦	高26
	○ 虎頭 良裕	高28
姉水会館	北川あさ子	高31
	○ 澤村 祥太	高53
	板谷 明香	高59

ご挨拶

校長 藤居 毅



姉水会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校のために多大のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

りがとうございます。

さて、昨年の4月から、母校である虎姫高校の校長として勤務し、早1年が過ぎました。現在の虎高を取り巻く状況はけっして順風とは言えません。高校入試が全県一区制となつて10年以上が経ち、湖北地区では高等学校の再編により、統合新校の長浜北高校が今年度から8クラスの新生を迎えています。また、湖北の人口が年々減り続けている中、交通の利便性から、南部へ進学する生徒が増えています。しかし、このような中、各学年5クラスだった学校規模が、高校再編の関係もあり、今年度から全学年が6クラスとなり、学校全体が以前の活力を取り戻してきました。現在の虎高生は、本心に素直で真面目

な生徒達ばかりです。文武両立を目指して、日々努力している彼らの姿を見るにつけ、我が後輩として大変頼もしく思っています。4年後の2020年には、虎姫高校は創立100周年を迎えます。今年度から創立100周年記念事業に向け、皆様方のご協力を得ながら、実行委員会組織の設立準備を進めていきたいと考えております。虎高の将来を左右するこの大切な時期に勤務させていただき、身の引き締まる思いであり、その責任の重さを実感しています。今年度も、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本校の歴史は大正9年に開校した県立虎姫中学校に遡ります。湖北に県立中学を設置する計画がなされ、地元先覚者のご努力によりこの虎姫の地に開設されました。以来今年で96年目を迎えます。卒業生の数も2万名を超え、国内外において、各界のリーダーとして素晴らしい活躍をされています。

本校は、「質実剛健」の校風や、校歌にある「独立自尊」、「方円自在」の精神を、創立以来脈々と受け継いできており、それらは本校のあらゆる教育活動の中に生かされています。

学習面では、文部科学省指定のSSH「スーパーサイエンスハイスクール」事業が最終年度の5年目を迎えます。現在5年間のまとめと、次期の

指定に向け準備を進めております。また、「国際バカロレア」の導入に向けた調査研究指定校」の県指定も3年目となり、こちらも、候補校申請に向け準備を進めているところでです。

この2つの取り組みは、与えられたものをこなすだけの受け身の学びではなく、本校が大切にしてきた、授業と家庭学習を核に、自ら意欲的に学ぶ姿勢を身につけることに繋がるものです。単に知識を詰め込むのではなく、自ら課題を見つけて、今までに獲得してきた知識を活用し、協働して解決してゆく力の育成を目指しています。

90周年記念事業において、姉水会のご支援により県下の高校に先駆けて導入していただき、生徒達の学習への意欲を高めるとともに、学力の向上に役立っております。昨年度と同様に今年度もクラス数が1クラス増えたことを受け、姉水会からさらに電子黒板1台を寄贈いただき、重ねてお礼申し上げます。

部活動におきましても、昨年度は男子テニス部が県で団体優勝しインターハイ出場を果たし、野球部は夏の選手権大会で26年ぶりにベスト8に駒を進めました。男子バレーボール部も、県新人大会で準優勝を果たしました。文化部では、ESや科学探究部が全国大会に出場しています。進学実績では、この3月に卒業した68回生に

校歌

日東第一流の湖水の
石礫も清く流るる
湖北に冠たる伊吹山の
千載流の動かし難
山水等し勝地を占
此所に開けし我が校
我々が朝暮をこめ
習徳を研げし第一の故郷
山には松も自樹を客
水には方円自在の力
何れも我々が能くし
いそみ進まん学を道と

において、現役国公立大学合格率が40・6%、現役進学率が87・8%という優れた実績を残してくれています。全体の傾向としては、医療系や教育系を目指す生徒が多くなるように思います。過年度生では、医学部医学科に国立1名、私立に2名が合格し、国立の歯学部にも合格者を出しています。

このように「文武両道」を着実に実行してくれていることを大変嬉しく思っています。

皆様方には、今後とも母校に対しまして、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

卒業50周年記念同期会を開催しました

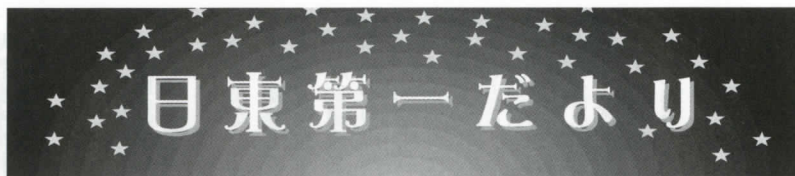
第17回卒（昭和40年卒業）

私たちが虎高を卒業したのは忘れもしない、東京オリンピックの翌年の昭和40年3月でした。大学の受験勉強のためオリンピックの中継を見ていては親に勉強しなさいと叱られていた記憶が鮮明に残っています。

昭和39年は東海道新幹線が開通した年でもありました。日本初の高速道路の名神高速道路が全線開通したのも昭和40年でした。

日本中が高度成長の真っただ中にありいろいろな意味で今とは正反対の活気のある世の中でした。

あれから50年、私たちは古希を迎える年になりました。古希の由来は杜甫の詩・曲江で「酒債は尋常行く処に有り 人生七十古来稀なり」と詠われたところから来たそうですが、そんなまれ（希）な歳になったこと、卒業50年目の節目の年とい



うことで10年振りに同期会を、平成27年11月15日（日）午後1時より長浜ロイヤルホテルで開催しました。
卒業生 310



名中、出席者78名（物故者35名）、足立先生の参加をいただき2次会はおろか3次会4次会まで延々と続きました。

1次会では1分間スピーチで全員が近況報告をし、思っていることを学生時代さながら前に出て話しました。

次回は何時するんだということもなく最後は暗い闇の中に皆消えて行きました。

次回は何時しましょうか？

台風11号による大雨でJR運転見合わせによる混乱の同窓会

虎姫高等学校第18回卒業生

例年にならない暑さの中、3年毎に行われている同窓会を、平成27年7月18日（土）、長浜市の「グランパレー京石」において開催いたしました。

当日は、前日夜から未明にかけての台風11号による大雨で、近畿地方のJRは、順次運転再開された後も徐行運転が続くダイヤは、終日混乱しましたが、昭和41年卒業生311名中59名が集まり、恩師の瀬邊 勉先生、数内 徹先生、松島正隆先生を囲んで、思い出ばなしに花を咲かせながら、久しぶりに盃を交わし、大変意義深い1つとなり、楽しい時間を過ごすことができました。盛況の内に無事終了することができました。

電車の立ち往生などの混乱により、影響を受けた方も多数おられ、当初の予定時刻より遅れて、午後12時30分、参加者全員が、記念写真の撮影を速やかに終え、パーティを迎え、最初に、今は亡き故人となられた恩師諸先生、同窓生を偲んで、1分間の黙祷を捧げ、瀬邊 勉先生の音頭で乾杯のうえ、宴が始まりました。続いて、当日、遠路をお越しいただいた恩師諸先生から、先生のお人柄や日頃の行いの数々を、ユーモアたっぷりにご紹介いただき、われわれの知らない部分が、いかに多いかに驚かされました。

懇親会は、当時の在籍組毎の12テーブルに、恩師諸先生を交えて、盃をかわしながら、なつかしい熱く燃えた学生当時の話などを、思い起こすことができ、あつと言いまの楽しい3時間でした。

最後に、参加者全員が、大きな輪になり、校歌を斉唱しながら、会場を後にし、参加者のほとんどが、会場のマイクロバス等により、2次会会場の「浪漫ビル」に会場を移し、大いに盛り上がり、更に、親交を深め、次回の再会を楽しみにしながら、散会しました。

虎姫高校を昭和41年に卒業してから、約40年の月日が過ぎ、元気に会えたことに感謝し、今後も、同窓生仲間の絆を大切に、健康に留意しながら、第2の人生を楽しみたいと決意も新たに感じる同窓会でした。

最後に、母校が、益々、発展し、恩師諸先生、同窓生の皆様の融和が、さらに、深まることを祈念いたしまして、一文とさせていただきます。
（速水敏行）

虎高第26回卒 還暦の修学旅行

虎高第26回卒の我々は、めでたく還暦を迎え一生の思い出づくりを目指し還暦の修学旅行を企画しました。

平成28年5月14日から15日にかけて、文科系コースと体育会系コースに分かれて旅をし、北陸の山中温泉で落ち合う行程です。

体育会系コースは、虎高を朝7時に出発し福井のジャパンセントラルゴルフ倶楽部にて、数内徹先生・中村幸悦先生・村田洋先生に作って頂いた、虎高第26回卒ゴルフコンペ数内・中村・



村田杯を目指し、日ごろの技を競い合い山中温泉に向かいました。

文科系コースは、虎高を午後1時に出発し石川県のゆのくにの森を見学し山中温泉に向かいました。そして、北陸山中温泉の翠明にて落ち合いました。

大宴会においては、虎高を卒業して以来の長い年月を埋めあいながら楽しい時間を過ごすことができました。2次会においては、ホテルのバーを貸切、カラオケ大会をしました。出身中学対抗の歌合戦で見事優勝の湖北中学出身者が、次回同窓会の幹事に決まりました。

翌日は、文科系コース・体育会系コースとも1台の大型バスに乗り込み、金沢の近代美術館・兼六園を見学し記念写真を撮り、兼六園内の茶店で昼食をとりました。その後、近江町市場にてお土産を買ひ帰路につきました。

この還暦の修学旅行を引率して下さった先生方は、中原清雄先生と奥様・数内徹先生・宇佐美正勝先生・村田洋先生。女子生徒8名・男子生徒28名。総勢41名。大変有意義で、思い出になる還暦の修学旅行となりました。

ちなみにゴルフコンペの栄えある第1回大会優勝者は、藤田右俊君。準優勝は、松田孝二君。3位が、村田洋先生でした。ベストグロは、松田孝一君の81でした。

今回所要のため参加できなかった第26回卒の皆様の中で、ゴルフを趣味としておられる方々に連絡をいたしたいと思えます。先生方に作って頂きました優勝杯をめぐる毎年ゴルフコンペを行う運びとなりました。ゴルフデンウィーク明けの土日に行います。参



加ご希望の方は、幹事の坂井までご連絡ください。
 〒529-0144 長浜市大寺町1003番地5
 坂井建築設計事務所 坂井 久泰
 TEL 0749-732144
 携帯 090-2281-7106

第32回生恒例オリンピックイヤー同窓会

大型連休前半の土曜日、街は観光客で溢れている。午後5時、会は、駅と一体化したビル「長浜迎賓館」4階で開かれた。会場にある東向きの小さな窓からは、伊吹山が遠望できる。目の前にはあるはずの「駅前の平和堂」は、更地となつて跡形もない。

三々五々集まる同級生達。GW開催は今回が初めてだが、総勢72名が集まった。同窓会は、現在、長浜市議会議員として活躍中の山崎正直兄。開会の挨拶は中川浩一実行委員長だ。一昨年鬼籍に入られた、七組担任込山建治先生はじめ、物故の同級生、さらには熊本大地震の犠牲者にも黙祷を捧げる。



恩師北川貢三先生からの挨拶。澄んだお声と静かな口調が、高校時代の授業を彷彿とさせる。氏原道夫、村居多美子両先生も駆けつけてくださった。杉澤和雄兄の発声で乾杯の後、会は和やかに進む。円卓や立ち話の輪も、五十代半ばの集まりに相応しく、落ち着いた雰囲気。スマホが幅を利かす様子もない。

高校時代、好きな道に一所懸命になるすばらしさを教えてくれた友人と再会できた。長年主治医として父親の脈を診て、看取りを支えても

らった恩人にも、改めて礼を言えた。誰もが、気の置けない友を前にして、日頃の荷物を少し下ろし、屈託のない高校生に戻った2時間半であった。

最後は日東第一の合唱。そして、「4年後は東京オリンピック、母校は創立百周年、我々はプレ還暦。めでたい尽くしの同窓会にしよう。」と、笠原仁之実行副委員長の明るい閉会の挨拶。皆、来た時よりも元気に会場を後にした。

(文責 河下)

第38回生 学年同窓会

平成27年8月15日(土)、北ビワコホテルグライエにて第38回生の学年同窓会を開催しました。同窓生109名、恩師の先生方8名の参加がありました。記念撮影、物故者への黙祷に始まり、クラス担任の先生方に近況報告と出席者全員の呼名をしていただきました。わたしたちの時代は7クラスあり、時間もかかりましたが昔に戻つて元気に返事をしていました。何より各クラスの担任の先生方が全員お揃いだったことに深く感謝申し上げます。学年副主任の清水利展先生の乾杯のご発声でにぎやかに和気あふいの歓談となりました。

お盆の最中また酷暑日が続く中での開催となりましたが、多くの参加をいただいたことに幹事一同感激しております。次回は12年後の次の羊年で平成39年2027年となります。

皆様お元気でお楽しみに。本当にありがとうございました。



平成27年度姉水会総会記念講演

「ICT活用がもたらす教育の未来」

ゼッターリンクス株式会社 代表取締役

山田 邦裕 氏(虎高34回)



1. はじめに
 姉水会総会にお呼びいただきました誠ありがとうございます。この度は母校の大先輩の皆様方を前にしてお話しをさせていただきます。

私は西浅井町集福寺(現在の長浜市)という福井県との県境近くにある60軒ほどの小さな集落で生まれました。野山に囲まれた自然豊かな環境のところですが、大変に雪深いところでもありました。西浅井中学校を卒業して虎姫高校に入学。高校ではクラスバンド部に所属し、発表会やコンクールを目指して日々練習に励んでおりました。また当時はロックやフォーク音楽のバンドを結成して演奏することが流行っており、一部の生徒はギターやベース、ドラムなどを買っては盛んに練習に励んでいました。私もヤマハのエレクトーンを習っていたことから、友達達のバンドに参加することになり、キーボードを担当しました。そして当時始めたばかりのシンセサイザー(電子鍵盤楽器)を買ったことがきっかけでこれに夢中になってしまいました。それとともに勉強に費やす時間が激減してしまいました。県内有数の進学校である虎姫高校で勉強をしなくなると、当然成績も下がります。3年生になっても一向に成績が伸びず、やる気も起きなかつた私は早々に進学をあきらめました。とにかく音楽で何かをしたい、音楽をやりたいは東京に行くしかない、との勝手な思い込みで東京の就職先を紹介していただき、都会への憧れだけで上京いたしました。就職したのは東京の御徒町にある「多慶屋」というデイスカウントストアでした。ここには虎姫高校出身の先輩が活躍されており、その先輩に大変によく面倒を見ていただきました。今から思うと、無謀な気持ちで上京した私に対して公

私にわたって面倒を見ていただいた同窓の先輩に出会えたことはとても大きな幸運であったと思います。

東京では、昼はデイスカウントストアでの客商売、夜はレコーディング・エンジニアなどを養成する音楽芸術科のある夜間の専門学校、休日はバンド活動と多忙を極めた毎日を送っていました。働きながら2年間専門学校に通いましたが、結局音楽関係の就職先はなく途方に暮れていたところ、たまたまコンピュータプログラマーの仕事ならある、とのこと。未経験のままコンピュータの会社に飛び込みました。入社後、一通りのプログラミングの研修を受けると、すぐに現場に配属。当時は本当にプログラマーが足りなかつたと思います。そして三重派遣、三重派遣でどんどん高度な職場に配属され、最後は日立製作所のソフトウェア工場で大規模コンピュータのソフトウェア開発を担当。深夜残業や徹夜は当たり前という、今でいうところの完全に「ブラック」な状態で働き続けました。そのおかげといつては何ですがプログラミングについては完全にマスターすることができ、ある程度の自信もつけることができました。

1985年、これからは大型コンピュータよりパーソナルコンピュータの時代ということで、知人から紹介を受け、パソコンソフト開発の会社に転職いたしました。当時はまさにパソコンの黎明期で、入社時は8人ほどだったのが、あっという間に120人規模の会社になるという急成長の中で、パソコン向けソフトの企画・開発から営業活動・販売チャネル開拓、そして保守サポートなど、一人で何でもこなすという貴重な経験を積むことができました。

1997年、あるシステム販売会社より「小中学校にたくさんパソコンが整備されつつあるが、授業で使えるいいソフトがなくて教育現場は大変に困っている。御社で開発していただけないか。」との依頼を受けたのを機に、教育ソフト事業に参入することになりました。とくにビジネス向けワープロソフトであるマイクロソフトワードを小学生でも使えるようにするため、メニューをひらがな表記に変えて操作を簡単にした教育支援ソフト「Dr.シンプラー」を開発。全国の多くの小学校に採用され、発売から6年ほどで4,000校以上の学校に導入することができました。これが現在の仕事につながるきっかけとなつております。

今から5年前の2011年、教育ソフト事業部門

を分社化することになり、自分自身も出資してゼツタリンクス株式会社を設立し、現在に至っております。

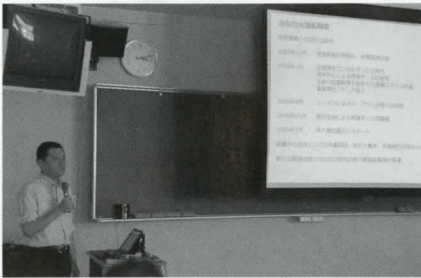
2. ICTを教育現場で活かすための取り組み

ICTとは何か、ということですがInformation and Communication Technologyの略で日本語では情報通信技術と呼ばれております。このICTを教育現場で活かすために、デジタルの特性であるデータの記録や伝達のしやすさ、データ分析や検索の容易さなどの機能を取り入れながらさまざまな取り組みを行っております。

熊本県にある壱溪塾（こけいじゅく）学園では、先生が黒板に書いた板書書きの内容と先生の声をすべてPCに記録しています。しかも先生はワイヤレスペンタブレットを利用することで、黒板に向かって生徒に背を向けて書くのではなく、生徒の机の間を歩きまわりながら手に持ったペンタブレットの上で板書書きをおこないます。ペンタブレット上に書かれた内容は即座にプロジェクターに映し出されて、教室の前のスクリーンに表示されます。つまり先生は壇上にいるのではなく、机の間を動きまわりながら、生徒に寄り添って授業することが出来ます。そして、記録した授業の内容は即座にホームページで公開され、生徒はいつでも復習として授業の内容を振り返ることが可能です。

この事例をモンゴルで紹介したところすぐに採用され、新モンゴル高校においても同様の授業が行われております。このようにデジタル機器とソフトウェアを使えば、データの記録と伝達のしやすさという特性を活かした授業を実施することが可能となります。

次に生徒一人に一台のタブレットPCを配布し、活用する例を紹介いたします。鹿児島のある中学校では、生徒にタブレットPCのペンを使って数学の問題を解かせています。そ



の筆跡データはすべて記録されており、電子黒板で即座に再生することが可能です。たとえばある生徒の解法のプロセスを電子黒板で再生しながら全員で見ることが出来ます。よりよい解き方を皆で考えたり、どこで間違いやすいかを検討したりと、相互に比較しながらの授業を行っています。これもペンの筆跡データを簡単に記録できるという特性を活かした取り組みです。

また京都のある中学校では、生徒がテストを行ったときの筆跡データの記録をもとに、どの問題に時間がかかっているか、どこで躓いているかを分析し、生徒の解答プロセスにあわせた個別の指導に活かしております。

最後に最近話題になっている反転授業の取り組みについてご紹介いたします。反転授業とは、2007年ごろからアメリカで行われはじめた授業方法であり、日本では2012年ごろからいくつかの学校で行われております。佐賀県の武雄市では全小中学校が反転授業の取り組みをスタートし、新聞やテレビ等でも大変話題になったことがあります。

反転授業とは、従来の学校の授業で知識を習得し、家で宿題をするという知識の定着や応用問題に取り組みというスタイルを反転し、家庭でPCなどによる動画授業を見て知識を習得し、学校では生徒同士の議論や協働学習などを重視して知識の定着や発展的な学習を行うという方法です。これまで行われていた教室での一斉授業スタイルでは、生徒は授業を聞いているだけ、という受動的学習に陥りがちとなります。また授業の中で個別対応の時間もなかなか取れないという現状があります。反転授業では、あらかじめ自宅で習得した知識を元に、教室の中ではディスカッションや発表などの能動的な学習（アクティブ・ラーニング）を中心として授業を進めることで、より発展的な課題や応用問題に対応できる力をつけるというねらいがあります。

一昨年、宮城県富谷町立東向陽台小学校の佐藤先生が算数の授業で反転授業を行うということで、お手伝いをさせていただきました。佐藤先生はタブレットPCを使って「比例と反比例」の授業内容をすべて収録し、授業の進行にあわせて子供たちに家で見てくるように指示します。子供たちはタブレットPCを家に持ち帰って授業内容を見て、わかったこと、わからなかったことをノートにまとめて学校に持ってきます。その内容をもとに、教室ではタブ

レットPCを使った発表や応用問題の解決のための討論などを中心とした授業を展開します。この家庭学習と教室での授業の組み合わせにより、今までなかなかとれなかった協働学習の時間を大きくとることができ、子供たちの理解度も大きくアップしたそうです。

※こちらの授業の様子は<https://youtube.com/intvchina>にて公開されております。

3. 県内の学校ICTの現状

次に滋賀県内の学校ICT環境の現状についてお話したいと思います。文部科学省が行っている調査「平成25年 学校における教育の情報化の実態等に関する調査」によると、校務用コンピュータ整備率について滋賀県は47都道府県中43位。日経パソコンの調査による公立高等学校情報化ランキングでは滋賀県は46位となっております。また県内でも全国約1700自治体の中で草津市は196位ですが、長浜市は1,563位と大きな差があります。

一方、家庭におけるICT普及率については全国でもトップレベルです。たとえばスマートフォン、世帯普及率は東京に次いで全国第2位。パソコンの世帯所有率は第1位。光回線の普及率も第1位、ブロードバンドは同3位。（総務省「情報通信データバンク」平成26年）実は滋賀県は全国トップレベルのICT先進県ということになります。家庭生活の場や一般社会ではICTが普及している一方で、学校の中でICTがあまり使われていないという現状については、今後の課題としてこの差を埋める努力が必要ではないかと思えます。

4. これからの社会に向けて

さて、これから虎姫高校を卒業する生徒たちが直面する社会は、さまざまな課題が待ち受けております。たとえば、世界的な人口増加の中で日本の人口は減少し、高齢化する社会。また所得格差がさらに広がり、人口の10%の人が世界の富の90%を所有する社会。そして単純労働だけでなく知識労働も人工知能に取って代わられてしまい、今ある職業の47%が機械化される社会など、大きな変化が到来しようとしています。このような中で、答えのない社会を生き抜くための新しい力が求められております。

教育現場では「21世紀型スキル」として、これまでの基礎的学力の上に批判的思考力や問題解決能

力、コミュニケーション能力などを身につけていくことが指向されています。これらの力を習得するためにも、ICTの活用とICTによる学習環境のさらなる高度化が求められています。そしてICTの特性を活かすことで、例えば海外との交流や自然観察、地域社会との連携等がより一層促進され、生徒たちの豊かな経験につながっていくことができれば幸いです。

アルバート・アインシュタインは「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。そして、その力を社会が直面できる諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間をつくること、それが教育の目的といえよう。」と語っています。

私も虎姫高校の授業で学んだ知識という面ではほとんど忘れてしまっておりますが、学校で経験したこと、たとえば夜行車で60キロ近くを夜通し歩いたことや部活や文化祭でさまざまな挑戦してやりきったこと、そして先生に真剣に怒られたことなど、今でも青春の1ページとして記憶に残っております。そしてこれから高校生活で経験してきたことが、自分の人生にとってかけがえのない大きな力となっているといっても過言ではありません。

虎姫高校には「質実剛健」「独立自尊」「万円自在」というすばらしい校訓があります。「独立自尊」には伊吹山のように威風堂々と自分に自信と誇りを持つて生きよう、「万円自在」には琵琶湖の水は四角にも円にも自由自在になる力があるように、柔軟なものと考え方ができる豊かな感性や知性を持つとう、という意味があると伺っております。この校訓のとおり、これからも虎姫を卒業する同窓の友が、道なき道である21世紀を自由自在に生き抜き、新たな道を切り拓いて世界に飛翔されんことを心より念願して本日のお話を終わらせていただきます。

本日は大変にありがとうございました。



マキノ自然体験 (1年4/17)



虎高の今



電子黒板を使っのグループ学習



虎 祭
(文化祭7/8~9、
体育大会7/10長浜バイオ大学ドーム)



サマーセミナー (2年高大連携、7月下旬8月下旬)



ようこそ先輩 (1年9/19)



SSH研究発表大会
(8/4~5大阪)

H28年度 研究指定

- スーパーサイエンスハイスクール指定校
- 国際バカロレアに向けた調査・研究
- 県立高等学校キャリア形成支援事業
- 「学びの変革」推進プロジェクトモデル校
- 京都大学と滋賀県教育委員会との連携協定に係る連携指定校
- 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業



修学旅行 (2年12/6~9行き先グアム)



進路状況

● 現役合格延人数

種 別	平成26年3月卒	平成27年3月卒	平成28年3月卒
卒業者数	195	198	197
大学	国公立大学	83	82
	私立大学	455	437
	計	538	519
短大	公立短大	1	0
	私立短大	0	2
専修学校等	15	12	10
就職	公務員等	0	1
			0

● 大学合格状況

【国公立大学】 合格延人数 ()内は過年度卒

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
東 北 大	1 (0)	0 (0)	1 (1)
東京芸術大	0 (0)	0 (0)	1 (0)
富 山 大	5 (1)	4 (1)	3 (1)
金 沢 大	12 (1)	9 (1)	4 (0)
福 井 大	2 (0)	2 (1)	4 (1)
信 州 大	0 (0)	4 (1)	0 (0)
岐 阜 大	2 (0)	2 (0)	6 (0)
静 岡 大	8 (2)	7 (1)	4 (0)
名古屋大	2 (0)	6 (0)	2 (0)
名古屋工大	7 (0)	0 (0)	4 (0)
三 重 大	2 (2)	0 (0)	2 (0)
滋 賀 大	8 (0)	7 (0)	7 (0)
滋賀医大	5 (0)	0 (0)	1 (0)
京 都 大	0 (0)	1 (0)	0 (0)

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
京都教育大	2 (0)	1 (0)	1 (0)
大 阪 大	2 (2)	1 (0)	1 (1)
大阪教育大	1 (0)	1 (0)	1 (0)
奈良女子大	0 (0)	0 (0)	2 (0)
神 戸 大	1 (0)	3 (0)	0 (0)
和 歌 山 大	1 (0)	1 (0)	1 (0)
岡 山 大	1 (0)	0 (0)	2 (0)
広 島 大	2 (0)	2 (1)	2 (0)
鳥 取 大	1 (0)	0 (0)	4 (0)
島 根 大	1 (0)	1 (0)	0 (0)
九 州 大	1 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学計	74 (9)	60 (7)	62 (5)

※ 紙面の都合上、全ての大学は掲載していません。

【私立大学】 合格延人数 ()内は過年度卒

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
明 治 大	1 (1)	4 (0)	1 (1)
慶 応 大	1 (1)	0 (0)	0 (0)
中 央 大	0 (0)	1 (0)	3 (0)
早稲田大	2 (0)	3 (1)	1 (0)
南 山 大	2 (0)	3 (0)	1 (0)
京都産大	10 (2)	18 (0)	6 (0)

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
京都女子大	12 (1)	27 (0)	12 (0)
京都薬科大	3 (2)	1 (0)	2 (1)
同志社大	21 (7)	7 (2)	14 (4)
立命館大	86 (5)	82 (14)	77 (11)
龍 谷 大	96 (5)	74 (9)	55 (0)
関 西 大	11 (2)	20 (1)	26 (8)

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
国際教養大	0 (0)	0 (0)	1 (0)
首都大学東京	0 (0)	4 (1)	0 (0)
福井県立大	1 (0)	2 (0)	0 (0)
名古屋市立大	0 (0)	1 (0)	1 (0)
滋賀県立大	9 (0)	8 (0)	11 (0)
大阪市立大	3 (0)	3 (0)	0 (0)
大阪府立大	1 (0)	1 (1)	2 (0)
公立大計	19 (1)	31 (2)	24 (1)
国公立大計	93 (10)	91 (9)	86 (6)

再掲 国立大医学部医学科

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
滋賀医大	1 (0)	0 (0)	0 (0)
医 学 科 計	3 (2)	0 (0)	1 (1)

再掲 国立大農学部共同獣医学科

大学名	平成26.3卒	平成27.3卒	平成28.3卒
鳥 取 大	0 (0)	0 (0)	1 (0)

※ 紙面の都合上、全ての大学は掲載していません。

● 第68回生(平成28年3月卒)進学希望者数に対する合格率・進学率

	人数	合格率・進学率
進学希望者数 A	197	
合格者数 B	180	合格率 B/A 91%
進学者数 C	173	進学率 C/A 88%
国公立大合格数 D	80	国公立大合格率 D/A 41%



平成28年度

職員人事異動 (敬称略)

退職
森田 忠男(数学)
領家 実(保体)
三田村伸之(英語)
宮部 正子(臨時職員)

転出

吉田 忠泰(国語) 彦根翔西館高等学校
中川 孝治(社会) 彦根東高等学校
高田 武治(数学) 県教育委員会事務局
赤尾 宗典(理科) 米原高等学校
福永 紘子(英語) 石山高高等学校
三井美名子(司書) 八幡商業高等学校

転入

鈴木真由美(国語) 彦根東高等学校
藤井 賢治(社会) 彦根東高等学校
菅原 信章(数学) 河瀬高等學校
川村 洋輔(数学) 安曇川高等學校
多賀 通子(理科) 米原高等學校
宮田 崇弘(理科) 膳所高等學校
矢盛 琢磨(保体) 新規採用
川瀬 千津(英語) 河瀬高等學校
奈須 祐亮(英語) 新規採用
板谷 明香(国語) 臨時講師
木野 葵(英語) 臨時講師
杉本 智子(司書) 長浜農業高等学校

〓 篤志をお寄せいただきました

川瀬 進弘 様 (高25回生 仙台市) より

金額 一〇〇万円

去る6月9日、伊勢神宮参詣の帰途、学校にお立ち寄りくださり、生徒の活動に役立ててほしいとご寄附いただきました。心より御礼申し上げます。





三角点

(上位成績のみ)

平成27年度分

【秋季総体・高総文祭】

・剣道

男子個人戦 辻勇輝 ベスト8

女子団体 ベスト8

・アーチェリー

男子団体 2位

男子個人 沖田執 10位

女子個人 岩元希 12位

・卓球

女子団体 ベスト4 (近畿大会出場)

女子ダブルス 新・山田組

ベスト8 (近畿大会出場)

・ソフトテニス男

個人 西川・宮田組

ベスト16 (近畿大会出場)

・バレー男

ベスト8

・陸上

男子800m 6位 岸田和太

男子個人戦2部リーグ 優勝

・演劇

優秀校

・ESS

高校英語ディベート大会県予選4位

・科学探究

滋賀県科学教育振興委員会委員長賞

(全体2位)

平成28年度分

【春季総体】

・剣道

男子団体 ベスト8 近畿大会出場

女子団体 ベスト8 近畿大会出場

男子個人 辻 ベスト8

女子個人 宮本 ベスト16

・卓球

男子団体 ベスト8 近畿大会出場

女子団体 3位 近畿大会出場

女子ダブルス 岩崎・坂口ペア

ベスト16 近畿大会出場

女子シングルス 新美乃理

ベスト16 近畿大会出場

・テニス男

団体戦 ベスト8 近畿大会出場

・テニス女

個人戦 堀・藤井組

ベスト16 近畿大会出場

・バレー男

県3位 近畿大会出場

・陸上

男子 800m 4位 澤面蓮

女子 砲丸投決勝12位 杉本実優



平成27年度 姉水会決算報告(案)

自 平成27年4月1日
至 平成28年3月31日

1 一般会計

収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	1,708,926	(定期: 1,404,183円、普通: 304,743円)
入会金	788,000	高68回生 (4,000円×197人)
同窓会名簿売上	16,000	4,000円×4冊
運営協力金	1,528,138	ゆうちょ、コンビニ振り込み分
特別会計より繰入	500,000	運営資金不足のため
雑収入	10,358	利息 (定期・普通)、総会祝儀
合 計	4,551,422	

支出の部

項目	金額	備考
通信費	5,136	郵送料等
旅 費	80,440	東京姉水会・総会講演会講師旅費
会議費	55,812	総会 (お茶代・写真代等)
謝金	20,000	総会講演会講師謝礼・10年勤続表彰謝金
慶弔費	20,000	祝儀 (東京姉水会・長浜姉水会)
姉水会館損害保険	36,750	損害保険料
会報「姉水」発行経費	1,872,222	株式会社「サラト」に委託
姉水会館施設設備費	29,227	ガス代
姉水会館外壁工事	37,000	老朽化による破損のため修繕
姉水会館害虫駆除	2,700	ダニ調査
その他	33,882	額・賞状・祝儀袋 (校章額仕立、10年表彰)
「特別会計」へ繰入	591,000	高68回生入会金より (3,000円×197人)
合 計	2,784,169	

次年度繰越金	1,767,253	(定期: 1,404,482円、普通: 362,771円)
--------	-----------	-------------------------------

収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	3,153,492	(定期: 2,135,090円 普通: 1,017,780円 622円)
一般会計より繰入	591,000	高68回生入会金より (3,000円×197人)
PTAより返済	623,000	H25年度に空調設備資金として貸出 (13カ年返済)
雑収入	1,033	利息 (定期・普通)
合 計	4,368,525	

支出の部

項目	金額	備考
一般会計へ繰入	500,000	運営資金不足のため
電子黒板購入	1,161,756	1年生クラス増のため購入
合 計	1,661,756	

次年度繰越金	2,706,769	(定期: 2,135,948円、普通: 570,199円 622円)
--------	-----------	------------------------------------

運営協力金

1,528,138円

多くの会員の方からお振り込みいただき誠にありがとうございました。

H27年度運営協力金は、主に会報「姉水」発行経費に充てさせていただきました。

今年度も、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

同窓会だより「姉水」の 原稿募集について

多くの学年で、旧交を温め合うべく同窓会を開催されていることと思います。その様子を本紙の『日東第一だより』に掲載させていただきたく存じます。是非とも事務局まで原稿をお寄せ下さい。写真のみの掲載でも結構ですので、どうぞよろしくお願い致します。毎年、5月上旬が原稿〆切りとなっております。